

— 1 —
次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

日常の世界で、年齢を聞いて「えっ。嘘でしょう。そんな歳に見えない。若い！」といった会話が、**A** 気の利いた挨拶のごとく交わされているのを見かけます。最近では、アンチエイジング（抗老化療法）というのでしょうか、多くの人が老化を防ぎ、肌をみずみずしくする効果があると言われている食べ物や商品に**ピンカン**に反応しているようです。そのこともあつてか、医療や美容、健康の分野で、老化の予防と**カイゼン**を訴える**コマーシャル**を頻繁に目にします。

漫才コンビの海原はるか・かなたをご存知でしょうか。かなたさんが、一・九分け（？）で整えたはるかさんの髪の毛がけて勢よく息を吹きかけると、はるかさんの隠れていたハゲが**バクロ**されるという芸がウケルのも、否定的に見られる「老い」を隠そうとする現代人の姿を逆手にとった笑いとも言えるのではないのでしょうか。また、その笑いは、世の中にアンチエイジングが浸透している証でもあります。

社会学者の上野千鶴子は、現代の人々が老いることに抗って、髪が薄くなるのを嫌う現象を、近代以前の成人男性の髪型である**チョンマゲ**を採り上げながら議論しています（『老いの発見2』）。上野の議論は以下のものです。

蒙古人の弁髪にならぶ世界の奇髪と言うべき風俗である**チョンマゲ**が、どうして生まれたのかという問題意識から論を展開していて、月代を剃り落として頭頂部の周囲に残った髪で髻を結う近世日本の成人男子習俗の**チョンマゲ**こそ、老人の禿頭を若者が先取りして取り入れた髪型であると述べます。というのも、早く自分も老人のような思慮深い人物になりたいという憧れからきているというのです。

この老人への憧れがつくり出す髪型は、中世の西欧においても、同様に見られると指摘します。それは、成人男子が公的な場に現れる際につけていた**白髪のカツラ**のことです。

私が小学校の高学年になった時、音楽の授業は専科の先生によって音楽室で

習うことになりました。音楽室へ行くと、音楽家の肖像画が壁に掲げてありました。ところが、さまざまなウェーブとはいえ、みんな白髪の頭をしていたのです。不思議でした。しかし、次のように解釈したのです。

「音楽家というものはみんな年老いてから有名になるんだ」

ところが、白髪の音楽家たちの中で**ベートーベン**だけが自然な黒髪だったのです。なので、**ベートーベン**は音楽界では**カッキ**的な存在で、「若くして有名な音楽家になったんだ」と勝手に納得していました。

私が、**ベートーベン**以前の音楽家たちが白髪のカツラをかぶっていたということを知ったのはずっと後のことです。

17世紀から18世紀なかばのバロック音楽の時代の**バッハ**や**ヘンデル**などの音楽家は、貴族たちが権威を示すために公式の場に出るときに白髪のカツラをつける奇習に倣って、かぶっていたというわけです。

上野によれば、この西洋における白髪のカツラにしても、豊富な知識と経験に**ウラ**打ちされた権威ある**B**から生じたものであると言っています。つまり、西洋における白髪のカツラ、そして日本の**チョンマゲ**は、共に**B**の髪型だったのです。

ところが、その風俗が近代と共に変わってしまいました。そのことを、上野は次のように述べます。

「日本はこの百年の間に、急速に**チョンマゲ**の時代から「**アデランス**」の時代に変わった。老人の地位の低下は、風俗の上でも「老けて見えること」の価値を、プラスからマイナスへ**ドラスティック**に転換したのである」

（「老人問題と老後問題の落差」）

老人に対する大きな変化は、伝統的な農業社会から工業社会に転換したことによるものであると上野は説明します。言い換えますと、社会的な老人に対する価値観の変化が、人々の老人を見る「まなざし」に変化を及ぼし、そのことを受けて老人を象徴とする髪型は消えてしまうことになったということです。

このように、それぞれの時代において創造された人間社会の価値観、規範、文化を媒介にして、同じ対象を見る私たちのまなざし（＝知覚）は変化します。もう少し、時代によつて現実を捉える知覚が変容していくということに着目しましょう。

みなさんは、カラスについてどのような印象をもたれているでしょうか。

道路を歩いていると、大きな黒い物体のカラスが頭をかすめるように飛んで来て、ドキッとしたことはありませんか。人間が近づいても、ゴミに顔を突っ込んで、我が物顔でなかなか飛び立たないカラスは、私もどうも苦手です。ところが、そのカラスと人間には非常に友好的な関係があったのです。

「天声人語」〔朝日新聞〕2001年5月9日付〕には、次のようなことが書かれています。

「人間とカラスとのつきあいは長いが、いまほど^②厳しい緊張に置かれたときはないのではないか。凶悪な状況である。東京都は去年に続いて9日から、ヒナや巢を除去する「緊急捕獲作戦」を開始する▼戦いを仕掛けたのはカラスだ、とは都の言い分だ。不遜にも、人間を威嚇したり、襲ったりする。一時的な強硬策もやむを得ない。つまり正当防衛である、と▼カラスの方も「カラスの勝手でしょう」と開き直ってばかりはいられない。言い分はあるう。街中に「ちそう（ゴミ）」があふれている。「どうぞ、いらっしやい」と誘われているようなものだ。都合が悪くなると、一転「除去」とは何ごとだ、と。人間を襲う不屈きカラスはごく少数派だ。「人間の勝手だ」と言いたくもなろう▼人間とカラスとが平和共存した牧歌的な時代を思い起こす。たとえば大正時代だ。だれもが知っている童謡「夕焼小焼」（中村雨紅作詞）では「鳥と一緒に帰りましょう」と手をつないで家路をたどった▼同じころ、野口雨情作詞「七つの子」では、子を思うカラスが「可愛 可愛」と啼いた」

問一 空欄 A に当てはまる語を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア あたかも イ そもそも ウ くしくも エ 必ずしも

問三 傍線部①「白髪のカツラ」をつけている目的は何ですか。文中から十字以内で抜き出しなさい。

問四 空欄 B に共通して当てはまる語句を文中から六字で抜き出しなさい。

問五 二重傍線部「現代の人々が老いることに抗って、髪が薄くなるのを嫌う現象」はなぜ生まれたのですか。その理由を文中の表現を用いて説明しなさい。

カラスが日本の歴史のなかで、その存在価値が変わっていく姿をよく表しています。このような指摘を受けますと、小さい時に歌ったなつかしい童謡には、カラスへの友好的な思いが込められていたのだと今さらながら驚きます。しかし、「天声人語」で指摘されるまで自覚がなかったのは、おそらく歌詞の意味など気にも留めず、ただ口ずさんでいただけなのでしょう。

平和共存から反転してカラスが悪者になったわけですが、はっきり言えることは、カラス自身が変わったわけではありません。カラスに対する私たち人間の見る目が変わったのです。それも、私たちの生活の変化がカラスを邪魔者にしてしまったということです。

このように、私たちは、時代や地域に縛られているある種の価値観によって、ある対象に対する偏った知覚をつくり出し、その結果、ある種の社会現象を生み出す可能性があるのです。

〔岩本茂樹「自分を知るための社会学入門」〕

（注） ＊アデランス……カツラの商品名。

＊ドラステックに……劇的に。

問一 傍線部イゝホのカタカナを漢字に直しなさい。

問六 傍線部②「厳しい緊張」と対照的な語句を文中から二つ抜き出しなさい。

問七 次のア～オそれぞれについて、本文の内容に当てはまるものには○、当てはまらないものには×をつけなさい。

ア アンチエイジングは世の中に浸透しており、老いに対する否定的な考え方は、今後が変わることはないと考えられる。

イ アンチエイジングという言葉が浸透したことによって、「老い」を話題にした漫才コンビの芸が現代人にはウケルようになった。

ウ 豊富な知識と経験を持つ老人たちに早く近づきたいという思いは、近世日本にも中世の西欧にも共通してあったことがうかがえる。

エ カラスが人を襲うことでカラスへの見方に変化が生じたように、人の感覚や価値観は時代によって様々な社会現象を生み出していく。オ 私たちの考え方には、住んでいる国や地域、生きている時代による偏りが必ずあるもので、そこから自由になることはできない。

① 今のところ僕の手元にある、かわいそうなことリスト、のトップに挙げられているのはシロナガスクジラだ。その子とは社会科見学の時に行った自然史博物館で出会った。地面には置き場所がないから、まあ許してくれたまえ、とでもいう感じで天井から吊るされ、宙に浮いていた。しかも全身、骨だった。「シロナガスクジラは地球上で最も大きな動物です。過去に絶滅したすべての動物を合わせても一番です。ここに展示している骨格標本は体長三十メートル、体重は百七十トンあります。食べ物はおキアミです。ニューファンドランド島の海岸に打ち上げられているところを発見されました」

博物館の人が説明してくれている間中ずっと、クラスの皆は「でか」「でかすぎ」「ありえない」とざわざわお喋りし、先生がいくら注意しても聞かなかった。

僕は黙って骨を見上げ、心の中でつぶやいた。

「もう分かったよ。それ以上言うな。この子だって自分が大きいことくらい、よく分かってるよ」

だから本来ならばこの言葉を使いたくはないのだが、確かにシロナガスクジラは、大きかった。他に表現の仕様が思いつかなかった。

② 骨はちょうどいい具合に焼けたクッキーのような色をしていた。長持ちさせるために薬でも又^イつてあるのか、時間が経てば自然とそうなるものなのか、表面は滑らかで、てかてかして見えた。体長の四分の一くらいを占める顎は、上下の骨が合わさって緩やかなカーブを描き、その付け根にある胸びれは人間の手とそっくりの形をし、あとは背骨がどこまでも長々と続けばかりだった。背骨を構成する骨たちは皆同じ形を持ちながら、先頭から最後尾まで大きさが少しずつ小さくなっていった。何もかもすべてが左右対称だった。大きすぎるせいで隅の方には規則が行き届いていない、などといういいかげん[□]なことにはなっていないかった。どの骨もお利口^ホに自分の居場所を守っていた。

真下に立ち、どんなに目を見開いても、彼（僕は勝手に男の子だと思ひ込ん

か最後の鼓動をキザ^ホもうとしている心臓だった。

そのあと何を見学したのか、一つも覚えていない。本当はシロナガスクジラのそばにずっといたかったのだが、そんな勝手が許されるはずもなく、先生に促されるまま列の最後にくっついて歩いた。でも心の中はあの子で一杯だった。目には入りきらないけれど、心の中には顎から尾まで全部が収まった。そのうえ吊るされた骨ではなく、海にいた時と同じ、肉も鱗^{うろこ}も噴気孔もついた本当の姿に戻っていた。

地図も持たずに君は、尾びれを振り上げ、背骨をしならせ、僕の中を泳いでゆく。きつと賢い君だけに見分けられる印があるのだろう。ちつとも迷ったりしない。小さな魚たちを驚かせないよう、動きはあくまでもゆったりしている。海流が君のすべすべした体を包んでいる。他の誰も真似できない雄大な移動が為されているとはとても信じられないくらいに、あたりは静けさで満たされている。

もし神様が「順番に並んで」と号令をかけたら、一番に返事をして先頭に立たなければならぬのは君だ。勇気あるものにしか務まらない役目だ。絶滅した動物たちを動員しても尚、君の代わりになれるものはいない。全世界を従え、月にも優る尊さを内に秘め、最も強い風を受けながら、たった一人耐えている闘士。それが君なんだ。

かわいそうなことリストを記録するためのノートはお兄ちゃんにもらった。元々はお兄ちゃんが野球のスコアをつけていたノートだった。去年の秋、チームが地区大会で優勝した時、ご褒美^{ほうび}に正式なスコアブックをパパからプレゼントされ、いらなくなったお古を僕にくれたのだ。だから最初の方のページには、打点3とか左二塁打とか捕エラーとか、わけの分からないことが書いてある。そこところは飛ばして、そのあとのまっさらなページからがいよいよ僕のノート、ということになる。

これは誰にも見せないと決めている。病気で長い間入院しているおばあちゃんにもし頼まれたとしても、たぶん心を④にして断るだろう。ましてやマ

でいる。どこの骨でそのところを見分けるのか、博物館の人は教えてくれなかった）のすべてを瞳^ハにウツすのは不可能だった。頭に焦点を合わせれば背骨が途切れ、尾まで網羅^二しようとするれば顎の先が視界から消えた。月でさえ丸ごと目に収まるのに、この子にはみ出してしまふのだった。

体長は十一階建てのビルに相当するとか、舌だけで象一頭分の重さがあるとか、博物館の人は相変わらず彼の巨大さを強調する話ばかりしていたが、月より大きいという自分の発見の方に僕は心奪^③われていた。そんな体を持つて生まれる人生がどんなものなのか、僕には想像もできなかった。大勢の友だちと一緒ににわいわい楽しんだり、逆に岩陰に隠れてのんびり静かな時を過ごしたりする自由は与えられていない。これほどの存在感を持ちながら、小さな目の魚にとつてはただの闇でしかないという矛盾を突きつけられている。自分の尾なの^③にそこは異国の地のように遠く、たとえ友だちになりたいと思つた誰かがそこを舐^なめて合図を送ってくれたとしても、返事が届くのは待ちくたびれて皆が立ち去ったあとだ。本当ならセイウチでもシャチでも一発でやつつけられるのに、遠慮して小さなオキアミしか食べない。自分で自分の体全体を見ようとしても自らの大きさに邪魔され、結局、自分がどんな生きものなのか知らないまま一生を終える。象やビルと比べられ、何かにつけ大きい一言でくられ、挙句^③の果てには骨をさらされている。

もつと僕をいたたまれない気持ちにさせたのは、実物と同じ大きさで作られた心臓の模型だった。ゴム製のそれはくすんだ赤色をし、表面に凹凸があり、言うまでもなく十分に大きかった。動脈と静脈は人が悠々すり抜けられるくらいの太さがあつた。クラスメイトたちはビノキオにでもなった気分で心臓によじ登り、万歳をしたり腹ばいになったりして次々血管を滑り降りていった。僕は彼の心臓を遊び道具にすることなどとてもできず、尾びれの最後の骨の下にただ黙って立っていた。僕に気づいて声を掛けてくる友だちは一人もいなかった。

皆が潜り込むと、柔らかなゴムがもごもごして、本当に心臓が動いているように見えた。ニューファンドランド島の海岸に打ち上げられ、人々から無遠慮に写真を撮られたり棒で突^つかれたりしながら、それでも弱ってゆく体でどうに

マの目に触れたりすれば大変なことになるから、テストや宿題のプリントやドリルを仕舞っている机の引き出しの、一番奥に隠している。いつだったか奥に突つ込みすぎて引き出しのどこかに引つ掛かり、表紙が折れ曲がつてしまった。ただ、油性ペンで精一杯丁寧に書いたタイトル「かわいそうなこと」が歪^{ゆが}み、本当にかわいそうな雰囲気^⑤を醸^かし出す結果になったのは、ノートのためにはむしろ都合よかったかもしれない。

正直に告白すれば、気持ちをありのままに記すのはとても難しい。自然史博物館から帰って来た日も、すぐにノートを開き、シロナガスクジラについて書くこととしたのに、いざ鉛筆を手にしてみると、どこからどう始めていいのか混乱するばかりだった。心の中で間違いなくシロナガスクジラは泳いでいる。海面に透ける流線型の影も見え、海流を震わせる心臓の鼓動も聴こえている。もちろん骨一個一個の形までも再現できる。なのに言葉は浮かんてこない。

僕と机の上のノート。見た感じではさほど離れてはいない。手を伸ばせばすぐに触れられる。けれどいざ心の中身をページに移動させようとすると、途端に果てしない空白が現れる。それが不思議でたまらない。

僕は鉛筆を握りしめ、空白をじつと見つめ、かわいそうな気持があふれそうになるのを感じつつ、どうにか二言三言、書きつける。的確な言葉を見つけたというのではなく、苦し紛れに吐き出したという感じだ。そういう言葉たちは四球、代打、三振、と同じくらい頼りなく、たどたどしい。

かわいそうなことは、もつと正確な言葉で記録されるべきだ、そうでなければ本当の慰めになどならない、とよく分かっている。ノートを広げるたび、僕は申し訳なくてたまらなくなる。シロナガスクジラの心臓で遊んでいた子より、自分の方がずっと残酷なのではないか、という恐れにさいなまれる。

鉛筆が止まったあとも、すぐにノートを閉じる気になれず、いつまでもページの白いところを見つめながら、リスト入りした彼らについてあれこれ思いを巡らせる。世界中が君を馬鹿にしたって、僕だけは味方だと、空白に向かって語り掛ける。そうやって僕なりに罪滅^⑥はしをする。

（小川洋子「かわいそうなこと」）

問一 傍線部イ―ホについて。カタカナは漢字に直し、漢字は読みをひらがなで記しなさい。

問二 傍線部①とありますが、どのようなことがあって「僕」はシロナガスクジラを「かわいそう」だと思うようになったのですか。適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 全身の骨が博物館の天井から吊るされ、誰からも興味を持たれていないこと。
イ 自分自身ですらどんな生きものなのかを知らないまま一生を終えること。
ウ 模型とはいえ、心臓が子どもたちの遊び道具として使われていること。
エ 象やビルと大きさを比べられるなど、大きさはかり注目されてしまうこと。

問三 傍線部②「骨はちょうどいい具合に焼けたクッキーのような色をしていた」に用いられている表現技法を次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 隠喩^{いんご} イ 体言止め ウ 擬人法^{ぎにんぽう} エ 直喩 オ 対句

問六 傍線部⑤「ノートのためにはむしろ好都合だったかもしれない」とありますが、どうことが「好都合」なのです。その説明として適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア ノートをもらったときには、精一杯丁寧に書いたつもりの字が、後になってみると思ったよりきれいではなく、歪んだだけごまかされているということ。
イ 誰にも見せないと決めているため、かわいそうな雰囲気が出ること
で、誰かが見たくなるようなノートではなくなったこと。
ウ お兄ちゃんの野球のスコアをつけていたノートのお古が、かわいそうな雰囲気が出たことで、「僕」の使用目的にちょうど合う見た目になったこと。
エ ノートを見るたびに活発なお兄ちゃんと自分を比べてしまっていたが、ノートがかわいそうな雰囲気になったことで、お兄ちゃんを意識しなくてよくなったこと。

問七 傍線部⑥「罪滅ぼし」とありますが、「僕」はどのようなことを「罪」だと考えていますか。文中の表現を用いて三十字以内で答えなさい。

問四 傍線部③「そんな体を持って生まれる人生」とありますが、その内容として適当でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 他の仲間たちと楽しく泳いだりすることは難しいだろう。
イ 他の魚たちが興味を持って合図を送ってもなかなか気づかないだろう。
ウ 小さい魚たちを気づかって急いで泳ぐことはしないだろう。
エ 行きたい場所があってもたどり着くことはできないだろう。
オ 物陰に隠れてリラックスすることはできないだろう。

問五 空欄④に当てはまる漢字二字を答えなさい。

受験番号
氏 名

得 点

小計

問	
イ	
ロ	
ハ	
ニ	
ホ	

問二

問三

問四

問六

ア	
イ	
ウ	
エ	
オ	

小計	

問一	イ	
	って	
	ロ	
	ハ	
	す	
	二	
	ホ	
		もう

問二

問三

問四

問五

問六

問七